

J. S. バッハ作曲「2声インヴェンション」の楽曲分析と演奏解釈

—第11番 ト短調 BWV 782—

藤 本 逸 子

はじめに

この小論に先立ち、「J. S. バッハ作曲『二声インヴェンション』¹⁾の楽曲分析と演奏解釈」²⁾と題し、「第1番 ハ長調 BWV³⁾ 772」から、「第10番 ト長調 BWV 781」までの10曲を、「豊橋短期大学研究紀要 第2号」から、「同第11号」の各号にそれぞれ、楽曲分析し、演奏解釈した。この小論も、それらと同じ観点にたって、「第11番 ト短調 BWV 782」を、取り上げたものである。

楽曲分析と演奏解釈

「W. F. バッハのための小曲集」⁴⁾(以下「Kb. für W. F. B.」)において、この「Inventio 11」にあたるのは、41番めの曲で、「Praeambulum 10」(BWV 782)と題されている。両者には、表Iのような違いがみられる。曲の終結部分にあたる[21]⁵⁾～[23]は、大きく異なっている。それ以外は、装飾音などの小さな違いである。

表I 「Inventio 11」と「Praeambulum 10」の相違箇所

	Inventio 11	Praeambulum 10	
[2] 下声 3 拍め	G 音 ⁶⁾ 上に♯	同なし	
[5] 上声 1 拍め	G 音, D 音, C 音	G 音, B 音, C 音	
[5] 下声 4 拍め	F 音上に♯	同なし	
[6] 下声 4 拍め	A 音上に♯	同なし	
[7] 上声 1 拍め	F 音上に♯	同なし	

- 1) 「二声インヴェンション」という呼び名については、豊橋短期大学研究紀要第2号「J. S. バッハ作曲『二声インヴェンション』の楽曲分析と演奏解釈」藤本逸子 1985年(以下「第2号における小論」)の「『インヴェンション』について」の項を参照のこと。
- 2) 作品名・書名・強調語句は、原則として「」に入れて表わす。
- 3) BWV = Bach-Werke-Vergleichnis, W. シュミーダーによる J. S. バッハ作品総目録番号。
- 4) 「W. F. バッハのための小曲集」については、「第2号における小論」の「『インヴェンション』について」の項を参照のこと。
- 5) 小節数は、数字を□で囲むことによって表わす。例、第4小節め→[4]、第3小節めから第10小節め→[3]～[10]。
- 6) 音名は、原則としてドイツ音名で表わす。例、変ロ音→B音、嬰ヘ音→Fis音。

	Inventio 11	Praeambulum 10	
8 上声 3 拍め	D 音上に♯	同なし	
8 上声 4 拍め	Cis 音上に♯	同なし	
9 上声 1 拍め	F 音上に♯	同なし	
9 上声 2 拍め	E 音上に♯	同なし	
10 上声 1 拍め	F 音上に♯	同なし	
10 上声 3 拍め	D 音上に♯	同なし	
10 上声 4 拍め	E 音上に♯	同なし	
11 上声 1 拍め	D 音, C 音, B 音	D 音, A 音, G 音	
11 下声 4 拍め	C 音上に♯	同なし	
12 上声 2 拍め	C 音上に♯	同なし	
12 上声 4 拍め	D 音上に♯	同なし	
16 上声 2 拍め	H 音上に♯	同なし	
16 上声 4 拍め	Es 音上に♯	同なし	
17 上声 1 拍め	Es 音, C 音, D 音, Es 音	Es 音, D 音, Es 音	
17 上声 2 拍め	F 音上に♯	同なし	
17 上声 4 拍め	G 音上に♯	同なし	
20 下声 1 拍め	G 音上に♯	同なし	
20 下声 3 拍め	B 音上に♯	同なし	
21 下声 1 拍め	D 音上に♯	同なし	譜 1 ⁷⁾ , 譜 2 ⁸⁾ 参照
21 下声 3 拍め	C 音, Es 音, D 音, C 音	C 音, B 音, A 音	
21 下声 4 拍め	B 音, A 音, G 音, B 音	B 音, G 音, A 音, Fis 音	
22 上声 4 拍め	G 音, F 音, Es 音, G 音	D 音, G 音, A 音, Fis 音	
22 下声 1 拍め	G 音, F 音, Es 音, G 音	G 音, C 音	
22 下声 2 拍め	Es 音	D 音, D 音	
22 下声 3 拍め	Es 音, D 音, C 音, Es 音	Es 音, Es 音, D 音, C 音	
22 下声 4 拍め	A 音, D 音	D 音, D 音	
23 上声 1 拍め	D 音, C 音	G 音	
23 上声 2 拍め	Cis 音, G 音, A 音, B 音	同上	
23 上声 3 拍め	D 音, A 音, G 音, Fis 音	同なし	
23 下声 1 拍め	G 音上に♯	G 音	
23 下声 2 拍め	B 音, A 音, G 音	同上	
23 下声 3 拍め	D 音, D 音	同上	
	G 音		

7) この小論における「Inventio 11」に関する楽譜は、Johann Sebastian Bach「Inventionen und Sinfonien」Urtext (Bärenreiter-Verlag, Kassel 1972) を用いている。国内においては、ベーレンライター社の許可を得て、全音楽譜出版社が、印刷出版している。

8) Johann Sebastian Bach「Klavierbuchlein für Willhelm Friedemann Bach」Urtext (Bärenreiter-Verlag, Kassel 1979) より。

譜1 「Inventio 11」 BWV 782 21~23

譜2 「Praeambulum 10」 BWV 782 21~23

楽 曲 分 析 (譜3 参照)

この曲は、二つの部分からなり、それぞれの部分は、次のような構成になっている。

第1部 1~10 (10)

主題の提示 1~4 (4)
 間 奏 5~6 (2)
 主 題 7~8 (2)
 終 止 9~10 (2)

第2部 11~23 (13)

間 奏 11~12 (2)
 主 題 13~14 (2)
 間 奏 15~16 (1.5)
 間 奏 16~18 (2)
 主 題 18~20 (2)
 終 止 20~23 (3.5)

各部分における楽曲分析

第1部

主題の提示

- 1~4・1~2 上声部に主題 (T) が現われる。(T) は、十六分音符でできており、順次上行する要素 a (a) とその反行形 (e), 順次上行の後3度跳躍下行の要素 b (b) とその反行形 (q), 7度跳躍上行の後順次下行する要素 c (c) から成り立っている。それらは、(a)・(b)・(e)・(c)・(e)・(c)・(q)・(q) という並びになっている。
- ・1~2 下声部は、対旋律 (G) である。半音で下行する要素 d (d) と、十六分音符で順次上行の後2度下行する要素 e (e) で成立している。2後半の (d) は、シンコペーションになっており、(SR), (G) を特徴づけている。

- ・ [3] ~ [4] 上声部は、(e) の反行形 (ə) と (a) で (T) を処理した後 (G) の反行形 (G) を置いている。
- ・ [3] ~ [4] 下声部は、[1] ~ [2] の上声部を1オクターブ下げた (T) である。ただし、[2] 1拍めの E 音は [4] 1拍めでは Es 音になっている。これは、次の間奏で B dur⁹⁾ に転調するその準備のためである。

間奏

- [5] ~ [6] ・ [5] 上声部は、(e)・(b)・(e)・(c) で (a) が (e) に変化した (T) の前半を B dur で置いている。[6] 上声部は、[5] 上声部をゼクエンツするように d moll になっている。ただし、出だしの (e) は (a) に変化している。
- ・ [5] 下声部は、(ə) (b) の後カデンツ風なバスの動きが続く。[6] 下声部は、(b) の拡大形の変形 (b ♯) の後同じくカデンツ風バスが続く。

主題

- [7] ~ [8] ・ [7] ~ [8] 上声部は、(a) の後 (G) が d moll で置かれている。
- ・ [7] ~ [8] 下声部は、(T) が d moll で置かれている。

終止

- [9] ~ [10] ・ [9] ~ [10] 上声部は、(G) 後半の (SR) を利用した動きを2回した後 (e)・3度の動き・カデンツと続き、d moll に第1部を終止させている。
- ・ [9] ~ [10] 下声部は、(q)・(q)・(b)・(b)・(b) の反行形の逆行形 (q ←)・(q ←)・(q ←)・カデンツと続き、d moll に第1部を終わらせている。

第2部

間奏

- [11] ~ [12] ・ [11] ~ [12] 上声部は、(e)・(b)・(e)・(c)・(a)・(a) と (T) の要素を利用した間奏である。[11] 上声部は、(a) が (e) に変化した [5] ~ [6] 上声部と同じ (T) の前半である。
- ・ [11] ~ [12] 下声部は、(a)・(b)・(e)・(b)・(e)・(c) と (T) の要素を利用した間奏である。[11] 下声部2・3拍めは、(T) の出だし2拍と同じ形である。また、[12] 下声部は、[11] 上声部と同じ (T) の前半である。
- ・ [11] 上声部と [12] 下声部で [5] ~ [6] 上声部と対応している。
- ・ (T) の一部を上声部・下声部交互に出すことによって、ストレッチ的効果を出している。
- ・ [11] ~ [12] 間に d moll → F dur → c moll と転調している。

主題

- [13] ~ [14] ・ [13] ~ [14] 上声部は、[1] ~ [2] 上声部をそのまま c moll に移した (T) である。
- ・ [13] ~ [14] 下声部は、[3] ~ [4] 上声部をそのまま c moll に移した (G) である。

間奏

- [15] ~ [16] ・ [15] ~ [16] 上声部は、(ə)・(a) の後、八分音符と八分休符で (G) 後半の (SR) を感じさせ、カデンツのバスのような動きで c moll に、しっかり終止させている。
- ・ [15] ~ [16] 下声部は、(a)・(b)・(e)・(c)・(e)・(ə ←) と、(T) の前半に (T) と (G) の要素を続け、うまく C 音に納めている。

9) 調名は、原則として、ドイツ音名を用い、ドイツ音名の大文字は長調、小文字は短調を表わす。例、ハ長調→C dur あるいは C:、イ短調→a moll あるいは a:

間奏

- 16 ~ 18 ・ 16 ~ 18 上声部は, (a)・(a)・(e)・(e)・(e)・(q) と (T) の要素で成り立っている。(e) は, リズム的变化が加えられている.
- 16 ~ 18 下声部は, (a)・(b)・(e)・(c)・(a)・(b)・(e)・(c) と (T) の前半が2回出てくる. これは, 5 ~ 6 上声部, 11 上声部 12 下声部に対応している.
- 16 ~ 18 間に c moll → Es dur → g moll と転調している.

主題

- 18 ~ 20 ・ 18 ~ 20 上声部は, 1 ~ 2 上声部と全く同じ (T) である.
- 18 ~ 20 下声部は, 1 ~ 2 下声部と同じ (G) であるが, 出だしに (a) が加えられ, 最後の音は G 音から D 音に変化している.

終止

- 20 ~ 23 ・ 20 ~ 23 上声部は, (q)・(q)・(a)・(a)・(q←) と (T) の要素を並べた後, 22 1 拍めで 10 上声部 2 拍めの 3 度の動きに対応するような 2 度の動きをする. (q)・(b) の変化した (b')・(q) と続き, 出だしが 1 オクターブ下げられた c の反行形 (c) として (c) と来て, 主音の G 音に納め, 全曲を閉じている.
- 20 ~ 23 下声部は, 9 上声部と同じように (G) 後半の (SR) を利用した動きを 2 回している. そして (b←)・(q)・(q) と続き, もう 1 度 (SR) の動きをする. そのリズムの動きの中からリズム的に変化した (e) を引き出し, カデンツのバスらしい属音の 1 オクターブの動きをして, 主音の G 音に納まり, 全曲を終止させている.

譜3 「Inventio 11」 BWV 782 〔1〕～〔23〕 (楽曲分析)

第1部 主題の提示

1

シンコペーションのリズム(SR)

g:

3

5 間奏

g:→B:→d:

7 主題

d:

9 終止

SR

d:

Δ

T

G

D

T

G

T

K

K

第2部
間奏

11

d:→F:→c:

主題

13

c:

15 間奏

C:→Es:

17

Es:→g:

19

終止

21

演奏解釈 (譜4参照)

テンポ

テンポに関して、諸校訂版¹⁰⁾は、表IIのような指示をしている。

表II 諸校訂版における「Inventio 11」のテンポに関する指示

校訂者	テンポに関する指示
Hans Bicschoff	Moderato ♩ = 80
Ferruccio Busoni	Moderato espressivo
Alfredo Casella	Allegro moderato ed espressivo
S. A. Durand	Allegro
Edwin Fischer	Tranquillo, ma scorrevole
Vilém Kurz	Moderato espressivo
Gin Enrico Moroni	Allegro moderato ♩ = 108
Bruno Mugellini	Allegro moderato ed espressivo ♩ = 76
Julius Rötgen	Andante con moto ♩ = 66
John Thompson	Allegro moderato

また、内外10人の演奏時間¹⁰⁾は、表IIIのとおりである。

表III 諸演奏家における「Inventio 11」の演奏時間

演奏者	録音年	楽器	演奏時間
Aldo Ciccolini	不明	ピアノ	0' 58"
Christoph Eschenbach	1974年	ピアノ	0' 51"
Glenn Gould	1963～64年	ピアノ	0' 54"
Tatyana Nikolayeva	1977年	ピアノ	1' 49"
András Schiff	1982～83年	ピアノ	1' 02"
高橋 悠治	1977～78年	ピアノ	1' 24"
田村 宏	不明	ピアノ	1' 24"
Kenneth Gilbert	1984年	チェンバロ	1' 11"
Gustav Leonhardt	1974年	チェンバロ	1' 56"
Helmut Walcha	1961年	チェンバロ	1' 46"

10) 各校訂版及び、各CDの出版については、本小論の「参考文献・参考楽譜・参考CD」の項を参照のこと。

筆者は、「Moderato espressivo ♩ = 80」というテンポをとる。少し落ち着いたテンポで、よく歌いたい。

アーティキュレーション

原則的に十六分音符は legato, その他の音符は *ten.* のついた non legato とする。区切りを感じる場所は (|), ブレスがほしいところは (V) で示した。

装飾音

原則的には、楽譜の指示どおりとする。ただし、音形と装飾音を統一させるため1部変更しているところもある。個々の装飾音については、解釈譜に小音符で示した。

各部分における演奏解釈

- ①～②・*mp*で出る。上声部は、① 2拍めのB音に向け一旦 *cresc.* した後、(T)のクライマックスである② 3拍めD音に向けて改めて *cresc.* する。そのD音を少し *ten.* し、③ 1拍めのB音に(T)を納める。
- ・下声部は、上声部の(T)を支えるように少々強めにG音を弾き出す。(G)の半音階を *ten.* と legato で充分意識させる。この半音階の下行にそって軽く *dim.* し、② 後半のシンコペーションのリズムを印象つけた後、③ 1拍めのG音に納める。
- ③～④・③ 上声部は、上行する音の動きにそって軽く *cresc.* する。④ 上声部の(G)は、上行にしたがって少し *cresc.* し、⑤ 1拍めのG音に持っていく。
- ・下声部は、①～②の上声部に準じる。ただし、1オクターブ低くなっているので太い音の表現がしたい。それを *mf* で表わす。
- ⑤～⑥・上声部は、転調にそって *mp, mf* と区切る。⑤ ⑥ それぞれの4拍めの7度の跳躍にエネルギーを感じさせ次のステップとし、⑦ 1拍めのF音にそのエネルギーを積み上げていく。
- ・下声部は、上声部を支えるようにして、上声部に準じる。
- ⑦～⑧・上声部は、⑦ 1拍めのF音に蓄えられたエネルギーを(G)の下行する動きにそって消費する。それを *dim.* で表わす。⑧ 後半のシンコペーションは、次の終止におけるクライマックスへの盛り上がりの準備のため、少し控えめの *mp* に納めておく。
- ・下声部は、①～②の上声部の(T)に準じる。ただし、全曲中一番低い(T)なので、低音を豊かに響かせたい。それを *piú f* で行う。しかし、⑧ 後半は、上声部と同じ理由で控えめな *mp* に納める。
- ⑨～⑩・上声部は、⑧ 後半と併せ3回のシンコペーションで、⑨ 3拍めのA音のクライマックスに一気にエネルギーを持っていく。この第1部最大のクライマックスを迫力を持って響かせた後、⑩の穏やかな下行にしたがって *dim.* する。⑩ 後半の細やかな装飾音をほんの少々テンポを緩めた中で美しくまとめ、⑪ 1拍めのD音に第1部を終了させる。
- ・下声部は、十六音符の細かい動きで上声部を支える。上声部のクライマックスの表現が効果的に行われるように、上声部に準じて *cresc.* と *dim.* し、カデンツのバスらしい動きを少々テンポを緩めて行い⑪ 1拍めのD音に第1部を終了させる。
- ⑪～⑫・上声部は、(T)前半であることを意識して、⑪を *mp* で弾き出す。⑫は、(a)の上行する音の動きを利用して *cresc.* する。
- ・下声部は、⑪で(T)出だし2拍分を *mp* から *cresc.* させ、⑫で⑪上声部から(T)前半を受け継ぐように *cresc.* する。

譜4 「Inventio 11」 BWV 782 ①～②③ (演奏解釈)

Moderato espressivo

① *mp* Tのクライマックス 甲.

③ *mf* Tのクライマックス

⑤ *mp* *mf* 甲 甲.

⑦ *piuf* *mp* Tのクライマックス 甲.

⑨ *mf* *f* 第1部のクライマックス 甲.

ほんの少々テンポを緩める

- 13 ~ 14 ・ 上声部は、12 の *crese.* を受けて *mf* で 1 上声部に準じて (T) を表わす。
 ・ 下声部の出だしは、上行する音の動きに合わせて少し *crese.* する。14 の (G) はしっかり *crese.* する。
- 15 ~ 16 ・ 上声部は、*mf* の余韻を残し強めに上行した後、16 のカデンツの動きでしっかり落ち着き、C 音に *p* で納める。
 ・ 下声部は、15 で (T) の前半の動きを強めに表わし、16 では *dim.* して、*p* で C 音に納める。
- 16 ~ 18 ・ 上声部は、2拍ずつのブロックで段階的に *crese.* し、17 3拍めの G 音にそのエネルギーを持っていく。18 は音の流れにそって *dim.* し、最後の (T) を迎える準備をする。
 ・ 下声部は、(T) の前半を *crese.* しながら 2 回弾くことで上声部を支える。ただし 17 は上声部と同じ理由で *dim.* する。
- 18 ~ 20 ・ 上声部は、1 ~ 2 の上声部に準じる。
 ・ 下声部は、出だしの 2 拍をほんの少々 *crese.* した後、19 は 1 ~ 2 の下声部に準じる。
- 20 ~ 23 ・ 上声部は、(T) 後半を模倣した動きで少し落ち着いた後、21 で 3 拍めの A 音に向けて一気に *crese.* する。全曲最大のクライマックスである (A) 音に集められたこのエネルギーは、21 4 拍めの D 音まで持続する。22 では、なだらかに *dim.* することによって、そのエネルギーを消化する。23 に入ってから少し *rit.* し、3 拍めの主音 G 音に静かに納め、全曲を閉じる。
 ・ 下声部は、(G) のシンコペーションのリズムの音形を主題部分と併せて 3 回利用し、2 拍ずつのブロックで段階的に *crese.* し、上声部のクライマックスに呼応する。そのエネルギーは 22 1 拍めの E 音まで持続させる。その後は、静かにエネルギーを消化させ *dim.* する。したがって、22 3・4 拍めのシンコペーションは決して刺激的な表現はしない。23 は少し *rit.* し、3 拍めの主音 G 音に静かに納め、全曲を閉じる。

おわりに

「Inventio 11」は、半音階の美しい曲である。この曲の対旋律の魅力は、半音階の魅力と言ってもよい。この作品に限らず、J. S. Bach の半音階を効果的につかった作品は、どれも魅力的であり、「おしゃれ」である。今、巷で使われる、この「おしゃれ」という言葉の中に、「現代にマッチしたセンスのよさ」という意味合いを感じる。また、J. S. Bach の半音階の魅力は、この「おしゃれ」という言葉がよく似合う。彼の作品は、約 300 年の間「現代にマッチしたセンスのよさ」を持続している。J. S. Bach の素晴らしさ、偉大さは、このようなところにあるのではないだろうか。

参考文献・参考楽譜・参考 CD

市田儀一郎 1983年「バッハ・インヴェンションとシンフォニア」(音楽之友社)

山崎孝 1984年「バッハ・インヴェンションとシンフォニア」(ムジカノーヴァ)

Johann Sebastian Bach「Klavierbüchlein für Wilhelm Friedemann Bach」Urtext (Bärenreiter-Verlag, Kassel 1979)

BACH「Inventionen und Sinfonien」Urtext (Bärenreiter-Verlag, Kassel 1972)

J. S. BACH「Inventionen Sinfonien」Urtext (G. Henle Verlag, München 1978)

J. S. Bach「Inventionen und Sinfonien」Urtext (Musikverlag Ges. m. b. H. & Co., K. G., Wien 1973)

BACH「INVENTIONEN UND SINFONIEN」Urtext (Edition Peters, Berlin 1933)

Johann Sebastian Bach「TWO-and THREE-PART INVENTIONS」Facsimile of the Autograph Manuscript (Dover Publications, Inc., New York 1978)

Johann Sebastian BACH「TWO-PART INVENTIONS」Hans Bischoff (Belwin Mills Publishing Corp. N. Y.)

J. S. BACH「15 INVENTIONEN」Hans Bischoff (Steingräber Verlag, Offenbach)

BACH「TOW-and Three-Part Inventions」Ferruccio Busoni (G. Schirmer, New York 1967)

BACH「INVENZIONI A DUE VOCI」Alfredo Casella (Editioni Curci, Milano 1982)

J. S. BACH「Inventions à 2 et 3 voix」Durand S. A. (Editions Musicales, Paris 1957)

J. S. BACH「ZWEISTIMMIGE INVENTIONEN」Edwin Fischer (Wilhelm Hansen, Musik-Forag, Copenhagen 1954)

JOH. SEB. BACH「15 Zweistimmige Inventionen」Alfred Kreutz (Edition Schott, Mainz 1916)

BACH「DVOUHLASÉ INVENCE A TRÍHLASÉ SINFONIE」Vilém Kurz (Editio Supraphon, Praha 1981)

BACH「15 INVENZIONI A 2 VOCI」Gino Enrico Moroni (Carisch S. p. A. Milano 1944)

BACH「INVENZIONI A DUE VOCI」Bruno Mugellini (G. Ricordi & C., Milano 1983)

JOH. SEB. BACH「ZWEI-UND DREISTIMMIGE INVENTIONEN」Julius Rötgen (Universal Edition, Hungary 1951)

BACH「THE TWO-PART INVENTIONS」John Thompson (The Willis Music Company, Cincinnati)

長岡敏夫編「バッハ インヴェンションとシンフォニア」原典版(音楽之友社 1965)

角倉一朗校訂「バッハ・インヴェンションとシンフォニア」原典版(カワイ出版 1983)

全音楽譜出版社出版部編「バッハ インヴェンション」(全音楽譜出版社)

Hans Bischoff 角倉一朗訳「J. S. バッハ インヴェンションとシンフォニア」(全音楽譜出版社 1972)

Ferruccio Busoni 伊藤義雄訳「二声インヴェンション」(Breitkopf & Härtel, Frankfurt 1914)

井口基成「バッハ集 二声部インヴェンション 三声部インヴェンション 小前奏曲・小フーガ」(春秋社 1983)

千倉八郎編「バッハ インヴェンションとシンフォニア」(日音楽譜出版社 1983)

Aldo Ciccolini (Piano)「J. S. BACH INVENTION」TOCE6601 (TOSHIBA EMI)

Christoph Eschenbach (Piano) 1979「INVENTION & SINFONIA」F26G20323 (POLYDOR)

Glenn Gould (Piano) 1989「BACH INVENTIONS & SINFONIAS」28DC5246 (CBS SONY)

Tatyana Nikolayeva (Piano) 1986「J. S. Bach INVENTIONS AND SINFONIAS」VDC-1079 (VICTOR)

András Schiff (Piano) 1985「J. S. BACH 2 & 3 PART INVENTIONS」FOOL-23100 (POLYDOR)

高橋悠治 (Piano) 1991「インヴェンションとシンフォニア 他」COCO-7967 (NIPPON COLUMBIA)

田村宏 (Piano) 1989「J. S. バッハ インヴェンション」CG-3722 (NIPPON COLUMBIA)

Kenneth Gilbert (Cembalo) 1985「J. S. BACH INVENTIONEN UND SINFONIEN」POCA-2113 (ARCHIV)

- Gustav Leonhardt (Cembaro) 1992 「バッハ：インヴェンションとシンフォニア」 BVCC-1863 (BMG VICTOR)
- Helmut Walcha (Ammer-cembaro) 1961 「J. S. バッハ／2声部のためのインヴェンション&3声部のためのシンフォニア」 TOCE-7231 (TOSHIBA EMI)